

2020年7月25日

大久保啓次郎

福沢諭吉先生との出会い

私は1940年に生まれ、1958年に慶應義塾大学に入学し、1962年に同大学を卒業致しました。

その後、2003年3月まで63年間、学生生活やサラリーマンとしての生活を致しましたが、福沢諭吉先生に関する本を読んだ事は一度もありませんでした。入学する前から、福沢諭吉先生の名前は知っていましたが、特に関心はなく、在学中には他の人の伝記を読んだことはありますが、「福翁自伝」すら読みませんでした。聞くところによれば、関西にある某大学などは、入学してから2年間の教養課程で、同大学の創立者に関する講義の受講が義務付けられているそうです。この点について、現在の慶應義塾ではどのようなになっているのか知りませんが、私が塾で学んだ4年間では、そのような事はありませんでした。

サラリーマン生活に終止符を打った時は63歳で、これからどういう生活をするべきか悩んでいた時に、高崎商業高校の大先輩であり、塾では我がクラスの担当教授でもあった石坂 巖教授（初代福澤研究センター所長）が、「2003年7月から鴨川で福沢諭吉の『学問のすゝめ』を講演するので、暇があったら聞きにいらっしゃい。」とお誘い下さり、鴨川義塾に通うようになりました。石坂教授からはその後、当時「福澤諭吉協会」の常務理事であった西川俊作教授をご紹介して頂き、石坂及び西川両教授のご推薦により、2004年4月から「福澤諭吉協会」の会員にして頂きました。

その後、石坂教授のご推薦で「福澤諭吉全集21巻（岩波書店）」他を購入し、数年間で読破するなどして福沢諭吉に関する勉強を深めました。

結局現在に至るまで、石坂&西川両教授のお陰で、福沢諭吉に関する拙論を講話する機会にも恵まれております。

以上